



# ライフドアすわ 地域ケア会議通信

発行：諏訪市地域医療・介護連携推進センター ライフドアすわ  
〒392-0027 諏訪市湖岸通り5-12-5 Tel:0266-78-0477  
e-mail : info@lifedoorsuwa.jp



## 令和7年度第3回「諏訪市地域包括ケア推進会議」を開催しました

毎年恒例の「今年の漢字」が12月12日に京都・清水寺で発表され、1位に「熊」が選ばれました。

「熊」による人身被害や死者が過去最多になっており、政府が「クマ被害対策パッケージ」を取りまとめた他、全国各地でイベントの中止や学校の休校も相次ぎ、社会問題となりました。2位は「米」、3位は「高」と今年の世相を表しました。

さて、令和7年11月21日（金）、諏訪市総合福祉センター3階「交流ひろば」において、令和7年度第3回「諏訪市地域包括ケア推進会議」が13:30から開催され、薬剤師、介護支援専門員など36名の皆さんにご参加をいただきました。

今年の諏訪市地域包括ケア推進会議は、「諏訪市の社会資源が分からぬ。」という声から、多職種の皆さんに理解しやすい社会資源を記載した情報誌の作成を目指しております。

その中で、皆さんに情報誌を理解してもらえ

なければ「使いやすい情報誌、イコール情報誌の見直し」には至らないため、前回の諏訪市地域包括ケア推進会議では相談事例を用いながら実際に情報誌を手に取り内容を目にして、意見を聞きながら諏訪市の社会資源が掲載された情報誌を知ってもらうことから始めました。今回も諏訪市にある社会資源を多くの専門職の方々に知ってもらいたい、知ってもらうために相談内容を通して情報誌を見てもらい皆で提案を考えてもらうということを目的にグループワークを行いました。今回のグループ分けについては、専門職種ごとに分かれてグループワークを行いました。

また、ライフドアすわでは毎年、諏訪市地域医療要覧を作成していますが、余り活用されていないという話もありましたので、皆さんに見てもらえるような情報を掲載した医療要覧の作成を目指しております。

## [第3回諏訪市地域包括ケア推進会議]

\*日 時：11月21日（金）13:30～15:06

\*場 所：諏訪市総合福祉センター

\*参加者：36名（内訳）薬剤師4名、看護師2名、主任介護支援専門員6名、介護支援専門員14名、リハビリ1名、管理栄養士2名、社会福祉士3名、生活支援コーディネーター1名、事務3名

\*内 容：1. 開会 2. グループワーク（2事例について検討） 3. その他 4. 閉会

### グループワーク 相談1

「独居。80代後半男性。要支援1の認定があり、ADL,IADLは自立。地区の民生委員さんが「高齢になってきたし、去年より歩くのがゆっくりになってきた。今からデイサービスに行った方が良いと思う。」と家族に伝え、家族からデイサービス希望の相談があった。本人は「私はまだ大丈夫。」と言っている。自宅は駅近くのため、買物や受診も自立。」

相談1に対してグループワークで使用する情報誌

- 1.諏訪市通いの場マップ
- 2.医療機関ガイドマップ
- 3.諏訪市フレイル予防教室カレンダー
- 4.暮らしのお役立ちガイド
- 5.自分らしく生きるための希望表明書

### グループ発表

- 1.薬剤師及び栄養士のグループなので相談対応の機会がない。男性は特に人とふれあう場などには行きたがらないため、男性でも興味のある所へ見学に行くよう勧めている。人との接触が少ないので、町内にある交流の場を紹介する。介護認定などを確認して出来る範囲で支援し、ご家族への後押しをする。
- 2.デイサービスに行く気持ちはないのかもしれないし、自立しているということもありフレイル予防教室を案内する。人と接することが嫌という人に無理やり勧めることもない、その人が日頃どういう生活をしているか聞いて支援する。民生委員にサロンを立ち上げていただいて、地域で集まれる場を作ってはどうか。リハビリに関する話では、リハビリ職がいると運動などの案内をしてくれたり、杖の高さを変えることで歩きやすくなったりする。ご家族も知らないしケアマネもどういう自助具がいいのか提案もできないと思うので、リハビリ職に入ってもらい、現状を見て話してもらうと家族も遮二無二デイサービスに行けとは言わず、今、大丈夫と言ってもらうといいのではないかという話が出された。
- 3.グループは社会福祉士、理学療法士。ご本人の意思を尊重することが先ず一番大切ではないか。本人、ご家族の希望を良く聞く。どうしてもデイサービスでなければいけない理由があるのか、入浴に困っているとしても要支援1ではデイサービスでは週1回であろうから、身体の機能を高めて家でもお風呂に入れるようにすることを考えた方がいいのではないか。この方の機能にもよると思うが、デイサービスでなくともフレイル教室やサロン、もっと機能のいい方であれば有償ボランティアの担い手になってもらう、役割を持ってもらうようなことを紹介する。公的なサービスに繋げていく必要があるのかというところで検討した。その他では、「困っていますか」と聞くと「困っていない」と答えるでしょうから、聞き方も大切でこの方の状況をうまく引き出すかにもよるが、季節によって冬は大変というケースもあると思うので、その時々の状況に応じて支援の内容も変わるものではないかという意見が出た。
- 4.この方は要支援1を持っているが、何故認定を取ったのかがポイントになっていて、認定を取ってからサービスを使わないで今に至っている。ここで民生委員が心配になって相談したが、何故民生委員が心配になったの



のかというところを確認しないと、何かが起きていて心配になっているというところがポイントではないかということを皆で話し合った。もしかしたら体の調子が悪く、病気が進んでしまったということを考えられるし、本人は大丈夫と言うが足とか痛いところがあるのかもしれないということを探りながら進めていった方が良いのではないか。直ぐに介護保険のサービスを云々ということはお話ししないで、本人に今の状態を聞いたり、民生委員や家族の方に状態を聞きながら、こういうところが困っているなということが見えてきたところで、「こんなサービスがありますよ」とか「地域の力を借りませんか」という話を進めたらどうかという話になった。

5. 先ず介護申請を何故したのか理由を知りたいという話があった。それが進んでいったところでの話になるが、民生委員自体が予防教室を知っていたのか、当然介護保険の申請をされているので、機能低下イコールデイサービスということがパット出てきての勧めだったのではないか、当然そういう話を聞きながら予防教室があるという説明をこちらからしていくが、本人がどんなことにやる気になっていくのかなという聴取も必要になってくる。あとはそこまでの移動手段のことはどうやってそこまで行けばいいのか、「予防教室があるよ」と言っても移動が困難ということが多々あるので、そういうところの提案もしていければという話があった。
6. 相談に来た時に要支援1で予防教室を提案するのも一つだった。また男性で80代で何に興味があるのか、興味がないと行かないで興味のある予防教室を勧めるのが良いのではないか。ニーズを聞いて合うものがなければ、情報として市に提供して様々なサービスが利用できるように蓄積していくことも必要ではないか。フレイル予防教室のカラオケも人気のようで、4月の募集に対してキャンセル待ちもあるようだ。交通方法のチョイソコかりんちゃんは乗る方法が分からない人もいる。チョイソコかりんちゃんに乗ってみようというサロンの活動もあるようなので、本人に乗る方法を登録するまで支援できればいろんな場所のサービスを利用できるのではないかという話が出た。「一緒にやろう」ということが大切で在介も関わってやっていけると良い。サロンの活動は女性が多く、地域との関わりによって勧めるサービスも違う。公民館の活動も男のおもしろ俱楽部、囲碁、将棋などいろんなものがあるので、そういう情報も一つにまとめれば、民生委員も分かるのでサービス提供できるのではないかという話が出た。

## グループワーク 相談2

「独居。80代後半女性。要支援2の認定があり、ADL,IADLは何とか自立しているが、やや認知面が低下してきた（短期記憶障害）。介護保険の利用サービスは福祉用具（歩行器）、機能訓練型デイサービス2回/週。遠方の家族は受診には付き添ってくれるが、直接的な支援はしない。本人と会う度に独居を心配し（例：火の消し忘れ、詐欺に引っかからないか、体調不良）、（家族は）「使えるサービスは全部使いたい。」と言う。特にヘルパーサービスを希望するが、本人は拒否。家族の一番の心配は「安否確認」「緊急時の対応」。

相談2に対してグループワークで使用する情報誌

1. 諏訪市通いの場マップ
2. 医療機関ガイドマップ
3. 諏訪市フレイル予防教室カレンダー
4. 暮らしのお役立ちガイド
5. 自分らしく生きるための希望表明書

## グループ発表

1. 本人がどう暮らしたいか思いを聞く。家族が直接的な支援はしないが、もう少し何かできないか確認する。安否確認は個人の緊急通報、アルソック、見守り協力員や民生委員が窓口、見守りカメラ、電話、ポット、配食サービスがある。緊急時の対応は近くに見守り協力員の方が居れば、電気の点灯も確認できるが、遠方で直



ぐに来られないのであればその間、家事支援など自費事業の情報を提供。介護保険サービス以外のサービスの提案や、認知面の低下では小規模多機能も提案できそう。詐欺に関して65歳以上は迷惑電話の補助があり利用することも出来る。家に来てもらうのは嫌だという理由は何か、目的が明確であればヘルパーなど嫌がらないかもしれない。家族が遠方に居るので家族がこちらに来た時に近所の方に挨拶することも必要だという話が出た。

2. 緊急時の対応を家族が心配されている。生か死かという命に関わることで、家族は受診には付き添ってくれている。受診の時に先生と希望表明書に命に関わった時にどうしたいか相談しておくことが大事だという話が出た。認知面についてはどのくらい認知症が進んでいるのかが一番心配。進行の程度によってバスが使えるかポイントになる。緊急通報システム、日常生活用具購入支援も受けられたりするのではないか。
3. 安否確認や緊急時については、家族が具体的にどういうことを思っているのか、すり合わせも大事、緊急時にどこで気づくのか、それによってWebカメラを使うかアルソックの人感センサーを使うのか、近所の方にお願いするのかというところが見えてくるのではないかという話が出た。
4. ITを利用したカメラやその他の機器を使って見守りや安否確認をしたらどうか。料金も安めで出来そうなものを使ったらどうか。ヘルパーをどうして本人が受け入れないのか、家に入つてもらうのが嫌なのかどんな理由があるのかの確認が必要。家族が丸投げしているのではないか、最終的な意思確認などは家族が入らないといけないので、そこはきちんと説明した方が良いのではないか。火の事だったらしっかりとしているうちからIHに変えるとか慣れるとかそのようなことも必要ではないかという話が出た。
5. 本人と家族の関係性は良さそうなところは良いところ。安否確認については、配食サービスや新聞屋さんという意見が出た。新聞配達は何日か溜まっていると市の方に見守りネットワークで連絡をくれて安否確認をするということで対応ができる。その他もう少し家族に関わってほしい、関わり方も色々あると思うが、家族と本人の希望や思いを確認、緊急時にどのような対応をしていくのか確認が必要ではないか。
6. 配食サービスという提案が出たが、課題として金銭面で問題があるのではないか、携帯やスマホを使えない方が多いので、緊急時の対応、安否確認というところでの課題があるのではないかという意見が出た。

今回は、専門職種ごとのグループワークを行い、「相談内容」を通じて社会資源を見て提案をしてもらいました。参加していただいた皆さんには諏訪市にある社会資源を見てもらい、また知っていただく機会として、普段の業務の中で相談業務に関わらない職場の方々にも紹介していただき、高齢者が社会資源を活用しながら自宅で自立して生活できるサイクルを回し、持続可能な介護保険制度を目指していければと考えます。

### 令和7年度最終の諏訪市地域包括ケア推進会議となります。ご参加お待ちしております。

**日 時 第4回 令和8年2月18日（水）13:30～15:00**

**会 場 諏訪市総合福祉センター**

（湯小路いきいき元気館3F交流ひろば）

QRコードまたはE-mailで

**申込方法** ※E-mailでのお申し込みの場合は、

お名前、所属名、職種、電話番号

および“参加証のご希望の有無”をお知らせください。



**地域包括支援センター TEL: 0266 (52) 4141 (内線298)**

**ライフドアすわ TEL: 0266 (78) 0477 E-mail: [info@lifedoor-suwa.jp](mailto:info@lifedoor-suwa.jp)**